

横芝の碑 (その四十四)

「童子を連れた北清水の庚申様」

横芝の碑では、庚申様の石像を二回程ご紹介致しております。

確か四十八年の秋頃と記憶してありますが、北清水の住人とおっしゃる方から、「北清水の神社にも庚申様が建っているので調べて見てくださいか、広報に載ったものより古いらしい。」という連絡をいただいたことがありました。ご連絡が有線放送電話で、丁度一斎放送に入る直前だったので、残念でしたが、ご連絡下さった方のお名前と、神社の名称はお伺いできませんでした。最近になって、此の附近では神社といえば産土様のことであり、その他の神社は、天神様とか、稲荷様とか呼んでいる。という話を聞きました。そうすると三年前に北清水の方が教えて下さったのは北清水の産土様のことであつた筈で、あのまま放置していたことは誠に申し訳なかつたことになる気が付きましたので、早速産土様を訪れて見ました。

境内の鳥居をくぐつたすぐ左手で丁度伊藤東一郎先生の句碑の反対側に、鳥居の方を向いて建っている大小二体の石像は紛れもなく共に庚申様のお姿でした。小さい方の一体は極めて素朴で、彫りの

毀損や磨滅も烈しく、建立の年号其他も、卯十二年三月、と辛うじて判読できるだけです。大きい方の一体は、宝永四丁亥と刻まれているのが読みとれます。前々御紹介致しました庚申像は共に寛政年間(一七八九〜一八〇一)のもので、宝永四年(一七〇七)とい

いますと、今までのより八十年から九十年古い昔になる訳です。それにこの庚申様は立像の両側に童子(?)を従えているのも他には見かけない珍しいお姿です。

附近の人の話によりますと、小さい方の庚申様は昔からここに建てたのですが、大きい方の庚申様は、県道沿の三差路交差点附近に建てたのを、今から十数年前の土地改良の時に、ここに移動したのだそうです。

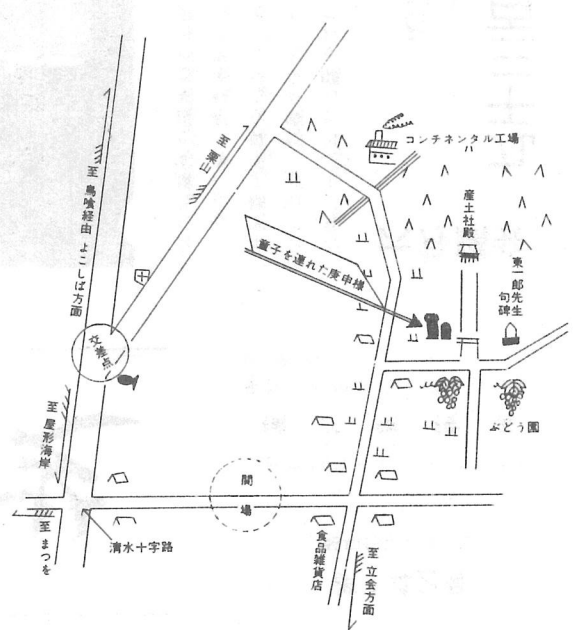
この庚申様は、昔はなかなか御利益があらたかたで、何時でも線香の煙が絶えなかつたそうです。

その御利益を戴くには、庚申様に供えられている石ころを拝借して来て祈り、願いが叶うと、別の石をそえて奉納する、という風習なので、庚申様の前は、その石ころで山の様になっていた、ということとす。特に疣(いぼ)おとしには靈験がよく現れ、お借りし



て来た石ころで疣をこすると、奇妙に疣が消えてしまったそうです。県道沿に建てていた頃は、まだその風習が残っていて、子供さんやおばあさんのお詣りをして、石を積んでいる姿を時々見かけたのですが、ここにお移ししてからは靈験が現れなくなつたのか、迷信排除のPRと医療制度の発展によるものでしょうか、庚申様の周辺には、お供えの線香や石ころは全く見かけられなくなつてしまつたそうです。

○写真は、庚申様の石像で、並んだ左側の小さい石像は、本文にもある通り極めて素朴に造られ、卯十二年三月、清水村と刻まれているのが辛うじて判読できる程度で、正面のお姿も足下の天邪鬼は



どうやら判りますが、三猿公は消えてしまった様で全く判りません。右側の大きい石像は、左側面には奉成就庚申為二世安樂也と刻まれ、右側面には宝永四丁亥正月吉日、上総国清水村、惣結衆敬と刻まれています。正面のお姿と、足下の天邪鬼は魔耗して、よく判りませんが、三猿公と、両側の童子は割合にはつきりしています。

奥の建物は産土様社殿です。◎本稿取材は、かねて御連絡下さつた北清水にお住いという方と、神社前に葡萄園を営まれる伊藤さん御一家のお力添えによることを附言させていただきます。

(町文化財審議会委員
小沢春光氏寄稿)